

テーマ 日立の新しいヘルス事業が始まる

日立製作所は、2016年4月1日、日立メディコ、日立アロカメディカルと統合し、日立のヘルスケアビジネスユニットとして新しい体制をスタートさせた。今回のITEM2016は、新体制になって初めての展示会である。ITEM2016では、新概念「Innovating Healthcare, Embracing the Future」を掲げ、新しい日立のイノベーションを紹介。

〈診断エリア〉

64列CT装置 「Supria Grande」

コンパクト＆ハイパフォーマンスを実現した日立製CTの最上位機種「Supria Grande」を展示。“確かな診断能”、“高スループット”、“優れた操作性”、“被検者へのやさしさ”、“既存設備を有効活用する設置性”、“病院経営をサポートする高い収益性”など同CTの特長をアピールし、日本の超高齢社会と医療費抑制に貢献する新しいコンセプト64列CT装置として紹介。また、展示会場では、デモコンソールや液晶モニターで「Supria Grande」の臨床画像を数多く紹介していた。



Supria Grande

主な展示製品

- X線透視撮影システム「CUREVISTA」
- 超伝導MRIシステム「TRILLIUM OVAL」
- マルチスライスCT「Supria Grande」
- 超音波診断装置「ARIETTAシリーズ」
- PET/CT装置「Ingenuity TF」
- 陽子線治療システム「PROBEAT-RT」
- 放射線治療計画ソフトウェア「RayStation」
- 有床診療所・小規模病院向け電子カルテシステム「Open-Karte AD」
- 骨密度測定装置
- 放射線（能）管理装置

32チャンネル
高感度コイル



3テスラ MRI 「TRILLIUM OVAL」

最新の撮像機能DKI、マンモのMRSが可能になるなどバージョンアップされた3テスラMRI「TRILLIUM OVAL」を紹介。また3テスラMRIでより高感度な撮影が可能となる最新の頭部用受信コイル「32チャンネル高感度コイル」も展示されていた。同コイルは従来の2倍の感度



TRILLIUM OVAL

となり高精細な画像を高速撮影することが可能となった。1.5テスラMRIには従来の10分の1の音量を実現した静穏化技術が搭載されるようになった。またワイドボアに入った時の感覚が体験できるバーチャルリアルティコーナーが来場者の注目を集めていた。

超音波診断装置

「ARIETTA S70」 「ARIETTA Precision」 「ARIETTA Prologue」 「ASU-SOFIA」

ARIETTAシリーズにShear Wave Measurement (SWM) を新たに搭載するとともに、Real-time Tissue Elastography (RTE) の機能改善を行いさらにパワーアップした「ARIETTA S70」。モニターと本体がワイヤレスで接続され、取り外して運用することができ、スペースが限られた手術室においても多彩なレイアウトを実現した「ARIETTA Precision」。コンパクトで持ち運びを考慮したデザインを採用した「ARIETTA Prologue」。そして、「ASU-SOFIA」は、デジタル超音波診断装置 Noblus と組み合わせることにより、ベッドに内蔵のされた探触子を回転させ、短時間（片側



ASU-SOFIA

ARIETTA Precision

52秒)で乳房全体を自動的にスキャンできる乳房スキャナ。取り込んだボリュームデータはオブジェクト解析システムORS Visualを用いることで、断層像や立体像、直交三断面表示が可能になる。

X線システム

「CUREVISTA」

X線システムは、新開発の画像処理エンジンFAiCe-V NEXT STAGE1を搭載したX線透視診断装置「CUREVISTA」をメインに、ハイビジョン透視録画装置「VC-1000」、トモシンセシス可能なデジタルマンモグラフィシステム「Selenia Dimensions」、ワイヤレスFPD搭載移動型X線装置「Sirius Starmobile tiara」シリーズを紹介。



CUREVISTA

〈診断エリア〉

今後サービス化する「ヘルスケアクラウド」のを中心にスマート手術室ソリューション、内視鏡トータルソリューション、病院運営支援サービスなどについて紹介していた。

〈治療エリア〉

陽子線治療装置「PROBEAT」、放射線治療装置「トモセラピー / TomoHD システム」と放射線治療計画ソフトウェア「RayStation」「Pinnacle³」が紹介されていた。